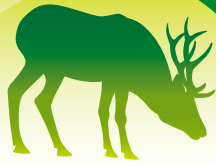


# ニホンジカの被害防止

「仕方がない」から「確かな防除」へ



シカの被害を防ぐには、個人プレーで対応するよりも集落ぐるみの団体戦が効果的です。何をやってもダメだとあきらめる前に、シカの生態や対策のポイントを知り、作戦を立て、みんなで話し合しましょう。



## 生態と分布 対策を考えるには シカをよく知ることが大切です

### 何でも食べる厄介者

草食性の動物で、ほとんどの植物の葉や樹皮、根や果実も食べます。環境によって食べるものを変えることができますが、本来は草原の生き物です。

### 夜に活動

食べては休みを一日中繰り返していますが、人間が活動しない夜に人里へ出てきます。

### 高いジャンプ力

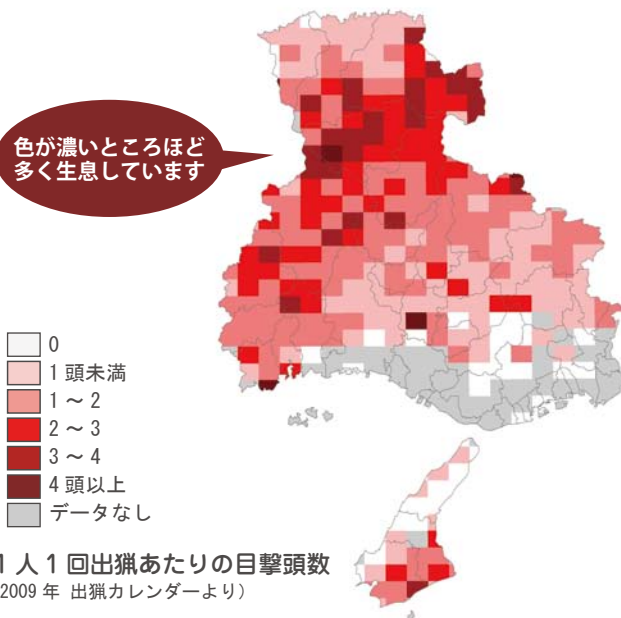
身の危険を感じたときは、2m以上のジャンプ力があり、急峻な斜面も一気に登ります。



### エサが豊富なら毎年出産

交尾期は9月中旬～11月上旬、出産は5～6月、1頭を出産します。1歳秋には性成熟しますが、1歳での妊娠率は餌条件により20～70%程度まで大きく変化します。なお、2歳以上の成獣の妊娠率は、80～90%以上と極めて高くなります。

色が濃いところほど多く生息しています



### 兵庫県における分布

本州部では瀬戸内側の大都市周辺を除き、県下全体に広く生息しています。南但馬地域から西播磨地域が分布の中心でしたが、近年は南北に拡大しつつあります。

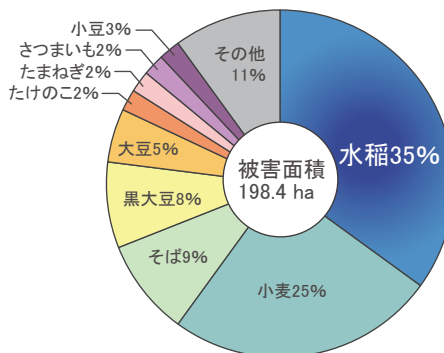
淡路島地域では、主に南東部の地域(諭鶴羽山系)を中心に生息し、北部及び南西部に拡大しつつあります。



## 被害状況

中山間地域で、水稻、野菜、豆類、いも類、雑穀、果樹など多くの農作物の被害が報告されています。被害の大きい水稻では、田植え後から稲刈りまで全ての段階で水田に侵入し、踏み荒らしたり、葉や穂を食害したりします。

シカはなわばりをつくらないため、農耕地や草地では、比較的大きな群れになります。同じ田畑に繰り返し侵入し、被害が甚大になることもあります。



シカによる農作物被害 (2009年)



## シカを集落に寄せつけないために

### 防護柵の種類と使い分け

#### 「個別柵」と「集落防護柵」

防護柵には、個人の田畑を囲う「個別柵」と、集落全体を囲う「集落防護柵」があります。個別柵は、設置や見回り、点検修理などが比較的簡単ですが、それぞれの農地を囲うので経費がかさみます。集落防護柵は、うまく設置すると大きな効果を発揮しますが、地形によっては張り方に工夫がいる、見回りや点検修理に労力がかかるなどの問題があります。立地条件や費用、効果などを考えて、選びましょう。

#### 金網柵



- 長所**
  - ・ 耐久性が高い。
- 短所**
  - ・ 設置経費が高い。
  - ・ 見回りや点検修理に労力がかかる。
- ポイント**
  - ・ 高さは 2m 以上。
  - ・ 編み目は 15cm 以下。  
(大きいと押し広げられます。)

#### ネット柵



- 長所**
  - ・ 設置経費が安い。
  - ・ 設置しやすい。
- 短所**
  - ・ 耐久性が低い。
  - ・ 噛み破りなどにより侵入されやすい。
- ポイント**
  - ・ 高さは 2m 以上。
  - ・ 網目は 10 cm 以下。

#### 電気柵



- 長所**
  - ・ 設置経費が比較的安い。
  - ・ 設置しやすい。
- 短所**
  - ・ 漏電防止の草刈りが必要。
  - ・ アース等で通電性を確保する工夫が必要。
- ポイント**
  - ・ 高さは 1.5m 以上。
  - ・ 4 段張り以上。
  - ・ 電圧は 5000v 以上。



電圧チェッカー

柵の設置は各種補助メニューがありますので、お住まいの市町役場にご相談ください。

## 無意識の餌付けをなくす

農作物を防護柵で囲っていても、集落の中にエサになるものがたくさんあると、シカは餌付いてどんどん集落にくるようになり、隙を狙って農作物を食べたり、人なれが進んで大胆な行動をするようになります。集落内にあるシカのエサをできるだけ減らして、無意識の餌付けをなくしましょう。

### 野菜くずの放棄

大切に育てている野菜も、いらなくなった野菜くずも、シカにとっては同じ魅力的な「エサ」です。野菜くずを畑近くに捨てることは、シカにおいしい餌場があることを教えているようなものです。田畑にゆくとおいしいエサがまとまってあるということをシカに学習されないように、野菜くずは埋めるなどして適切に処理しましょう。



畑にまかれた野菜くず

### ひこばえの処理

稲刈り後に生えてくるひこばえも、シカにとってはおいしい「エサ」になります。早生品種であれば、稲刈り直後の9～10月上旬と12月下旬の2回、中晩生品種であれば12月に1回耕起すると、ひこばえの発生を防ぐことができます。



## 集落みんなで対策を

### 集落防護柵のメンテナンス

どんなに丈夫な柵でも、時間がたてばどこかにほころびや穴ができてシカに侵入されてしまうので、定期的な点検や補修が欠かせません。見回り当番を決めて特定の人に負担がかからないようにする、補修のための積立をするなど、柵の点検や補修がうまく続けられるように、みんなで話し合しましょう。



### エサ場として魅力のない集落づくり

集落内のシカのエサを減らしたり、無意識の餌づけをなくしたりするには、集落全体での取り組みが効果的です。また、山裾で犬を散歩させたり、冬に青草が生えないように畦の草刈り時期を変えたりして、シカにとって魅力のない集落づくりを進めましょう。



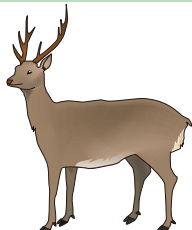
#### トピック

### シカとイノシシの 痕跡の違い

同じ偶蹄目ですので、足跡を見分けることは難しいですが、イノシシは足の後ろにある副蹄の跡が残り、シカは残りません。また、イノシシは地面に掘り返しや、ぬたうちの跡を残すことがあります。

#### シカ

長さ約5cm、幅約4cm  
(前足と後足の大きさはほぼ同じ)



副蹄の跡が残らない  
※雪の上や傾斜地では残ることがある

#### イノシシ

長さ約7cm、幅約5cm  
(前足と後足の大きさはほぼ同じ)



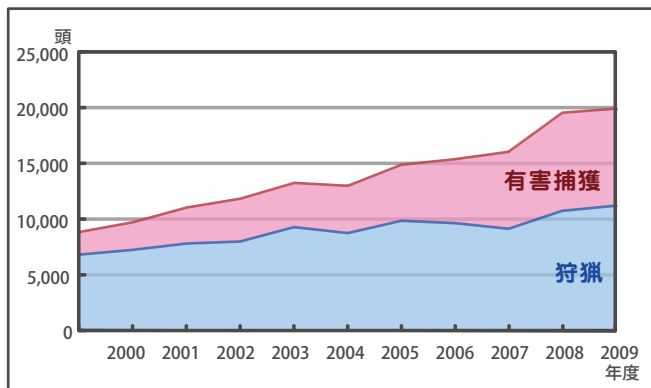
副蹄の跡が残る



## シカの捕獲について

シカを捕獲することは、重要な被害対策の一つです。兵庫県では、狩猟と有害捕獲により、年間3万頭の捕獲を目標にしています。(2010年現在)

野生動物を捕獲する場合は、狩猟者免許や有害捕獲許可などが必要です。狩猟免許の取得については、お近くの農林(水産)振興事務所にお尋ねください。



シカの捕獲数推移 (1999~2009年)



## 有効活用について

シカやイノシシのように繁殖力が高い動物は、常に捕獲圧をかける必要がありますが、捕獲意欲を高めるには、資源として有効活用するのが効果的です。シカはイノシシに比べ、食肉としての利用が少なく、現状ではほとんどが廃棄されています。

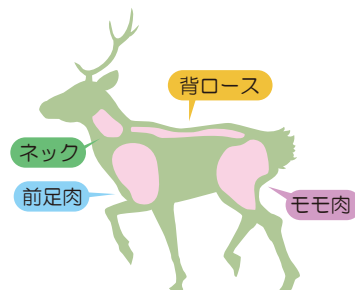
兵庫の大地で生まれたシカをジビエ料理として美味しくいただく、あるいはセーム皮や印伝など皮革として日常的に活用することは、地域資源の有効活用となります。

### シカ肉の特徴

高タンパク、低脂肪、鉄分豊富、ヘルシーな肉としてフランス料理などでは人気があります。

#### ※調理の注意点

シカやイノシシなど野生獣の肉は、衛生管理の面から必ず加熱処理を行いましょう。



### ひょうごシカ肉活用ガイドラインについて

衛生的で安全なシカ肉を確保するための手引き書として、「ひょうごシカ肉活用ガイドライン」を作りました。シカを食肉として衛生的に処理し、有効に活用していくための考え方や方法を記載しています。

ガイドラインの詳細はこちら ▶ 兵庫県ホームページ [http://web.pref.hyogo.lg.jp/hw24/hw24\\_000000034.html#h01](http://web.pref.hyogo.lg.jp/hw24/hw24_000000034.html#h01)

